

ろうさい かわら版

2022.9

vol. **63**
秋号



◆フォーカスインタビュー P2

血管内科 部長 **重松 明男**

◆ 認定看護師紹介 P3

がん性疼痛看護認定看護師 看護師長

柏木 勇生

特集① ◆ 最新機器、技術を備え、 患者に寄り添った検査を提供する P4・5

中央放射線部 部長 **河野 文一**

特集② ◆ 4階西病棟「れぽふる」のご案内 P6・7・8 ～緩和ケア病棟とはどんなところか～

緩和ケア内科 部長 **小田 浩之**

FOCUS INTERVIEW

釧路ろうさい病院をささえるみなさんにフォーカス。
医療従事者となったきっかけや
日々の精力的な活動についてご紹介していきます。

血管内科部長

しげ まつ あき お

重松 明男

PROFILE

2000年3月 信州大学医学部医学科卒業
2008年3月 北海道大学医学部大学院卒業
2009年3月 北海道大学病院検査輸血部助教
2011年5月 北海道大学病院検査輸血部副部長
2015年4月 札幌北楡病院血液内科医長
2020年4月～釧路労災病院内科部長



医師になった動機を教えてください

高校生まではラグビーに明け暮れていました。文系であり、将来についてはあまり考えておりませんでした。1993年、高校三年生の春に首が太くなり、ラグビーの効果が出来たかと喜んでいましたが、その後、鼠径リンパ節も腫れてきたので、「なんか変だな」とおもう、近所の病院（血液内科）へ行ったところ、血液のがんである「悪性リンパ腫」の診断となりました。以後、抗がん剤治療を行いましたが、完全寛解にはならず、HLAの一致した兄から同種骨髄移植を行い、改善しました。

病気が治り、命が助かったことや、学問的にみても面白いと考えて医師を目指すことにし、文系でも入りやすかった信州大学医学部へ入学しました。血液内科に入るかどうかは最後まで悩みましたが、結局は自分の病気に関係のある血液内科へ入局しました。



専門分野に血液内科を選んだ理由は？

血液内科は、血液の細胞である白血球や赤血球、血小板が増えたり減ったりする病気です。また出血しやすくなったりする病気も血液内科で対応します。血液細胞の数に異常の出る病気の多くは、悪性疾患（血液のがん）であり、白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など多くの病気があります。入院患者さんはほとんどが「がん」の患者さんになります。血液のがんは手術では治りませんので、点滴治療が主体となります。昨今は、いわゆる抗がん剤治療だけではなく、抗体や免疫治療など様々な領域に発展しており、多くの患者さんは治る、もしくは長生きできる疾患になってきています。点滴治療だけでは治らない患者さんで、体力的に可能な患者さんは札幌の病院へ転院してもらい、同種造血幹細胞移植を受けてもらうこともありますので札幌の病院との調整も重要な仕事になります。また、血液がんの治療では感染症や臓器障害など合併症管理も重要です。がん治療自体や感染症や臓器障害の評価、早期治療を行うために看護師さんを主体に日々の観察をお願いしています。

最近是新薬が多く出てきていますので、新薬を理解して、上手に使いこなすのが大変です。また、釧路エリアという広範な地域の、高齢な患者さん達に質のよい血液内科治療を提供するべく、日々検討しております。

がん性疼痛看護 認定看護師としての 活動を振り返り

がん性疼痛看護
認定看護師

かしわぎ いさ お
柏木 勇生



令和3年度におけるがん性疼痛看護認定看護師の登録数は全国で765名、そのうち北海道では23名、道東においては3名が地域医療・看護に従事しています。

私は、看護学生時代に担当した患者さんとの関わりを通して、もっと患者・家族のためにできることはないかを考えるようになりました。がんによる痛みで日々の生活がままならない、楽しい時間も過ごせない、そんな辛い時間は人の人生においてとても悲しいことだと思います。そこで、がんの痛みを苦しむ方の役に立ちたいと思い認定看護師を目指すことにしました。



受験と勉強、仕事の両立でちょっとだけ大変でしたが、無事平成21年にがん性疼痛看護認定看護師の資格を取得しました。その後、約10年以上にわたり多くのがん患者さんたちとともに歩んできました。釧根地区における院内・院外での活動にも参加してきましたが、私にとっての一番の出来事が平成30年に愛知県名古屋市にある中部ろうさい病院へ派遣となり、1年間にわたって活動してきたことです。北海道を出て、どんな楽しみが待っているのかという思いで名古屋へ行きました。

中部ろうさい病院ではがん看護の専従看護師として活動しました。また、併設されている看護学校や同じ地区にある病院での研修会、広報活動など様々な経験をしました。とにかく1日中患者さんやその家族とお話しました。時には医師からの説明の場に同席した後に治療や仕事で心配なことの相談を受けたり、またある時にはケースワーカーを紹介して安心して治療や仕事が継続できるように橋渡しをしたりすることで患者さんの一番近くにある存在を目指しました。困ったことがあればろうさい病院にきてくれたら、力になりたいという気持ちでした。私はこの病院での活動で、「看護をつなぐ」ということを改めて学びました。とても頼りになる医師や上司・同僚、薬剤師、栄養士、ケースワーカーなどがいて、そして患者・家族のためにできることは何かをともに考え、看護・医療が途切れることがないように、つなぐことを大切にしていました。

現在、釧路労災病院にもどり病棟の看護師長としても従事していますが、スタッフにも「看護をつなぐ」ことを意識して看護実践することを伝えていきます。これからも多くの患者・家族と関わり続け、釧路ろうさい病院にいれば安心して治療・看護が受けられるよう、尽力していきたいと思っています。



特集①

中央放射線部部長

このふみかず

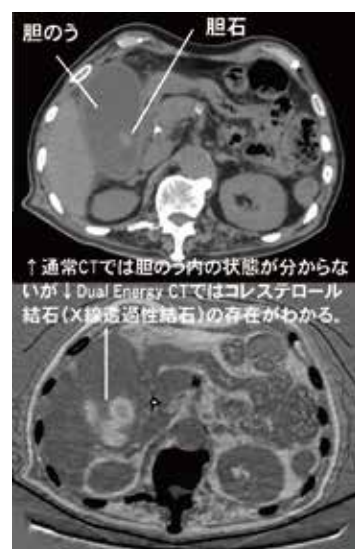
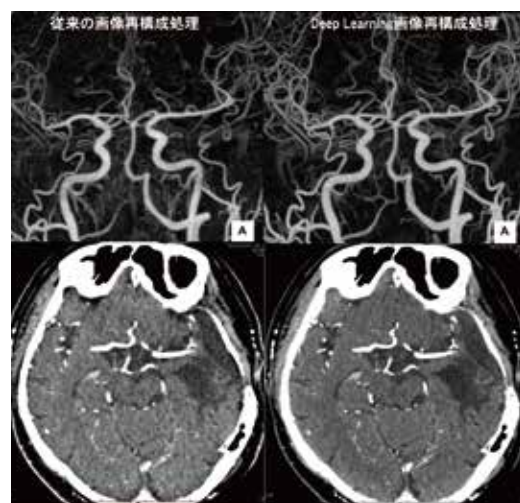
河野 文一



最新の患者に

私たちは放射線を用いることで患者さんの体を傷つけることなく検査や治療をおこなう診療放射線技師です。最近では診療放射線技師を主人公にした漫画『ラジエーションハウス』のドラマ・映画化もあり、皆様に知られる機会が増えました。ドラマの中ではいろいろな機械を扱い診断や治療が行われるシーンがありましたが、今回は当院の保有機器の紹介を交えて最新の放射線医療機器の紹介をさせていただきたいと思います。

近年の放射線撮影機器（MRI 装置を含め）は最新家電と同様にデジタル化が進み、フィルムレスが常識で、すべての画像が電子カルテ（コンピューターの画面）上で確認でき、即座に診断できる環境が整えられています。これらの画像の中で例えば CT（コンピューター断層装置）での画像処理において当院に導入されている装置では最新の技術として Deep Learning を搭載し、昨今急速に進化を続ける AI において基盤となる重要な技術を応用してさらなる高画質・被ばくに貢献する革新的な画像処理手法により、よりよい診断効果を得ています。また当院の CT には強度の異なる X 線を用いた撮影（Dual Energy 撮影）を行うことが可能で、腎機能低下患者および高齢者に対する造影剤投与量を従来の約半分に減量することができたり、スペクトラルCT解析により、腫瘍の質的診断能が向上しています。



機器、技術を備え、 寄り添った検査を提供する

ドラマのワンシーンにもありましたが、IVR（アイ・ブイ・アール）という言葉をご存じでしょうか。さまざまな医療場面で活躍の場を広げている治療法で、正確には「Interventional Radiology=インターベンショナルラジオロジー」、日本語では「画像下治療」と訳しています。文字通り、X線（レントゲン）やCT、超音波などの画像診断装置で体の中を透かして見ながら、細い医療器具（カテーテルや針）を入れて、標的となる病気の治療を行っていきます。治療できる範囲が非常に幅広いのも特徴です。私たちの体の中には10万キロに及ぶ血管と多くの管（消化管や尿管など）が張り巡らされていますが、IVRではこの血管や管の“迷路”を体の外から観察しながら、カテーテル（血管の中を通すチューブ）や針を走らせ、目標である病気の元に正確にたどり着けるからです。このため、体の負担は小さくても、IVRで対応できる病気は多いのです。そもそも血管を通るわけですから、血管の詰まりを治すことはお手のものですし、血管をたどって肝臓などの臓器に行くことで、抗がん剤を注入したり、がんの成長に必要な血液をがんが届かないようにしたりすることなどもできます。この技術は血管内治療を

行う脳外科医、放射線科医、消化器内科医の技術のもとに成り立っていますが、体内の細かい血管を鮮明に表示するための最新機器も当院には整備されています。

私ども診療放射線技師はこれらの装置の能力を最大限に活用し、いかに最適な画像を提供できるか日々研鑽し皆様のお役に立ちたいと思っています。またこれら放射線機器は被ばくを必ず伴ってしまいがちですが、できるだけ低線量で検査ができるよう努めています。心配な方はいつでも相談を受け付けられるような体制も構築しています。

検査というとちょっと心配されてしまう方もいらっしゃると思いますが、明るく、優しくをモットーに検査を行いますので安心して受診してください。



特集② 4階西病棟「れぽふる」のご案内 ～緩和ケア病棟とはどん

令和4年4月、当院の4階に《れぽふる》という名前の病棟ができました。

ここは、がんに伴う体や気持ちのつらさに対して専門的な緩和ケアを提供する病棟（緩和ケア病棟）で、医師、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士、口腔ケア、カウンセラー、MSWなどの専門家がチームとなって治療・ケアにあたっています。

そしてここでは、患者さんの「つらさ」を和らげるだけではなく、少しでも普段どおりに、少しでも入院前と同じように「生きる」ことができるように、施設にも様々な工夫が施されています。

本稿では、例として3つの取り組みをお示しし、緩和ケア病棟としてのこの病棟のイメージをお伝えしたいと思います。



エントランス

「つらさは最小に よろこびは最大に」



キッチンスペース

この病棟にはキッチンスペースがあります。今は面会制限があつてご家族らの付き添いはできませんが、コロナ禍が明ければ、きっと多くのご家族らが、ここで患者さんの好物をご家庭の味で調理され、団欒を楽しまれるに違いありません。

台所というのは、終末期の患者の家族が抱える「患者さんに何もしてあげられない」というつらさを少しでも和らげてあげる効果を期待する“仕掛け”です。家族が、スタッフから促されて手をさすったり声を掛けたり…、そういうことも大事ですが、台所で料理をつくるというのは、ただ言われたとおりのことをやる以上に、ご家族らが自ら率先して患者さんに関わり、ご家族ならではの趣き深い情景を生み出すものなのではないでしょうか。



なところか～

緩和ケア内科部長
お だ こう じ
小田 浩之



“仕掛け”と言えば、この病棟ではWiFiを整備するとともに貸出用のタブレット端末を用意し、患者さんとご家族らが自由にテレビ電話ができるようにしてあります。設備を準備しただけではありません。患者さんの入院にあたっては全例、主治医からご家族らにオンライン面会を積極的に行うように説明（ほとんど「説得」です）し、場合によっては看護師がご家族らのスマートフォンへのアプリのインストールをお手伝いするなど、ITに疎いがためにコミュニケーションが取れないようなことはないように万全を期しています。

所詮オンライン面会ですから、もちろん患者さんのベッドサイドにご家族が付き添うこととは比ぶべくもありません。それでもある程度は患者さんの状況をご家族らにお伝えすることはできています。また、ご家族らが「自宅からでも」、「遠くからでも」、「頻繁に」、そして「複数の家族が一度に」患者さんとお話ができるといったオンラインならではのメリットもあります。

折しもコロナ禍の真ただ中での病棟オープンで、厳しい面会制限をせざるを得ませんでした。それでも《れぼふる》では患者さんにご家族らの共通の時間を大切にしています。



オンライン面会環境



ホスピタルアート



この病棟では、ボランティアの皆様からのお力添えを得て、病棟壁面などを使ったアート展示などを行っています。

ホスピタルアートとは、芸術と触れる機会を通じて、患者が自由に思いをはせたり（場合によっては創造活動を行ったり）、スタッフやアーティストと交流することを促し、その人らしさや他者との関係性を回復させたり、日々の生活の中にセレンディピティ（思わぬ感動や発見）を生み出すことを狙うものです。たまたま何かのアート作品と出会い、まるで四つ葉のクローバーを見つけたときのような感動を手にする—この病棟には、そんなチャンスの種がまかれています。

《ればふる》の取り組みの一部をご紹介しました。この病棟にはこのほかにも患者さんがその人らしく、尊厳ある時間を過ごすための工夫がなされています。緩和ケア病棟は、冒頭に示したようにがんに伴う症状の緩和を行うための病棟ですが、その前に、この病棟ではまず患者さんに人間らしく過ごすための取り組みが行われていることをお分かりいただければ幸いです。

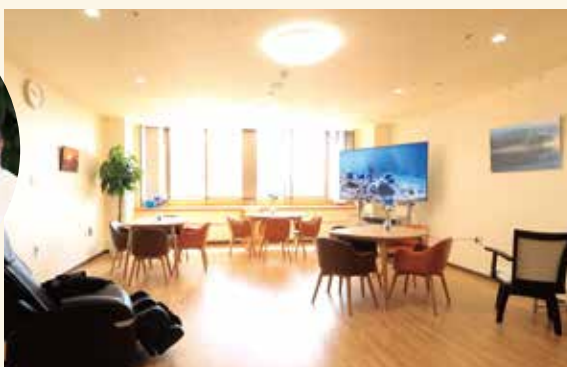
なお、《ればふる》は、次のいずれかに該当するがん患者さんがご利用いただくことができますが、申し込みは現在通院中の病院の主治医からのご依頼が必要です。ご不明の点があれば、どうぞ当院地域医療連携総合センターまでお問い合わせください。

《ればふる》を利用できるがん患者さん

- ・症状緩和が難しく、状態立て直しのため一時入院が必要
- ・自宅で介護している家族の休養等のため、患者の一時入院が必要
- ・自宅療養が難しく、最期の時間を病院で過ごすことが必要

※病棟では症状緩和のための治療やケアが行われますが、生命延長を目的としたがん積極治療(手術、抗腫瘍薬投与、治癒目的の放射線照射)や急変時の心肺蘇生(心臓マッサージ、気管挿管、昇圧剤投与)などの延命処置は行いません。

※主治医の見込む生命予後が1週間に満たないような臨死期の患者さんは対象とはなりません。逆に、生命予後が厳しい状況でなくても症状緩和などが必要な場合は、病棟病床に余裕があれば入棟できます。



談話スペース



3床室(トイレはバリアフリー)



リハビリスペース



家族控室



有料個室(大)



独立行政法人
労働者健康安全機構

 釧路ろうさい病院

〒085-8533 釧路市中園町13番23号
TEL/0154-22-7191(代表) FAX/0154-25-7308

<https://www.kushiroh.johas.go.jp>

くしろろうさいびょういん

検索

